文教委員会報告資料

令和３年４月２０日

報　告　事　項　件　名　　頁

（教育指導部）

（１）令和２年度足立区教育委員会事務の点検・評価について……　２

（２）「足立はばたき塾」に関する令和２年度塾生の進学状況及び令和３年度実施内容について……　４

（３）英語マスター講座委託契約プロポーザル選定委員会の審査結果について　６

（４）令和３年度「中１夏季勉強合宿」の実施方法について……　９

（５）「令和２年度第３回学校生活及びいじめに関するアンケート調査」報告について……１０

（６）あだち日本語学習ルームの令和２年度修了判定結果について……１５

（７）「よりよい学校生活と友達づくりのためのアンケート調査（hyper-ＱＵ）」の実施結果について……１７

（学校運営部）

報告事項なし

（子ども家庭部）

報告事項なし

（教育委員会）

文 教 委 員 会 報 告 資 料

令和３年４月２０日

件　　名	令和２年度足立区教育委員会事務の点検・評価について
所管部課名	教育指導部教育政策課 こども支援センターげんき教育相談課
内　　容	令和２年度「足立区教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価報告書」がまとまりましたので、ご報告いたします（別添資料１）。 **１　目的** 地方教育行政の組織及び運営に関する法律第２６条の規定に基づき、足立区教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検と評価を実施し、その結果を公表することで、区民への説明責任を果たすとともに、効果的な教育行政を推進する。 **２　内容** **（１）教育委員による評価** ア　テーマ：不登校対策支援事業（所管課：教育相談課） 教育委員が不登校対策支援事業の現場に赴き、それらの取り組みを点検し、今後の事業展開や見直しに反映させる。 イ　点検対象事業 ①　特例課程教室あすステップ ②　チャレンジ学級（適応指導教室） ③　ＮＰＯと連携した学習・居場所支援 ウ　主な意見　－課題や問題点に関する意見・要望－ ①　今回の３事業について、より一層の事業活用、児童・生徒の学校復帰・ステップアップのために、これまで以上に学校と連携していくべきである。 ②　通うのに不便な地域もあるので、実施場所を増やすなどの対応をすべきである。 ③　多くの教員が不登校を予測できる技能を学ぶ必要がある。 ④　今後、ＩＣＴを活用した支援や家庭学習支援などのアウトリーチ事業の拡充に期待したい。

	（２）評価委員会による評価 ア　対象事業 重点プロジェクト事業７事業と一般事務事業１事業 イ　評価結果 （ア）重点プロジェクト事業 ［全体評価］ ７事業の平均値で５段階中約４．１と、概ね良好の評価を得た。 ［個別評価］ いくつかの事業で特に目標の達成度に改善の余地を残すものの、概ね良好の評価を得た。 （イ）一般事務事業（青少年対象の事業および指導者の育成・支援事業） 予算計上の妥当性がＣと評価され、事業の見直しを求められた。
問題点 今後の方針	

文 教 委 員 会 報 告 資 料

令和３年４月２０日

件　　名	「足立はばたき塾」に関する令和２年度塾生の進学状況及び令和３年度実施内容について
所管部課名	教育指導部学力定着推進課
内　　容	

１　令和２年度足立はばたき塾生の進学先について

（１）進学先一覧　　（人）

進学先／年度	進学指導重点校等※1			小計	都立中高一貫校	国立	その他都立・私立	難関私立	総計
	進学指導重点校	進学指導特別推進校	進学指導推進校						
R2	3 (5.1%) [受験者 7]	4 (6.8%) [受験者 5]	16 (27.1%) [受験者 18]	23 (39.0%) [受験者 30]	3 (5.1%) [受験者 3]	0 (0.0%) [受験者 0]	33 (55.9%)	3	59
R1	4 (4.6%) [受験者 7]	8 (9.2%) [受験者 8]	33 (37.9%) [受験者 37]	45 (51.7%) [受験者 52]	3 (3.4%) [受験者 3]	1 (1.1%) [受験者 1]	38 (43.7%)	4	87
H30	3 (3.6%) [受験者 4]	9 (10.7%) [受験者 12]	21 (25.0%) [受験者 36]	33 (39.3%) [受験者 52]	5 (6.0%) [受験者 5]	1 (1.2%) [受験者 1]	45 (53.6%)	2	84
H29	4 (4.4%) [受験者 5]	8 (8.8%) [受験者 14]	27 (29.7%) [受験者 33]	39 (42.9%) [受験者 52]	3 (3.3%) [受験者 3]	0 (0.0%) [受験者 0]	49 (53.8%)	1	91
H28	0 (0.0%) [受験者 2]	2 (2.7%) [受験者 2]	24 (32.9%) [受験者 29]	26 (35.6%) [受験者 33]	2 (2.7%) [受験者 2]	1 (1.4%) [受験者 2]	44 (60.3%)	3	73
H27	1 (1.1%) [受験者 4]	3 (3.2%) [受験者 5]	23 (24.7%) [受験者 32]	27 (29.0%) [受験者 41]	1 (1.1%) [受験者 1]	0 (0.0%) [受験者 0]	65 (69.9%)	2	93
H26 ※2	4 (4.4%)	1 (1.1%)	30 (33.3%)	35 (38.9%)	3 (3.3%)	1 (1.1%)	51 (56.7%)	2	90
H25 ※2	6 (8.1%)	5 (6.8%)	19 (25.7%)	30 (40.5%)	2 (2.7%)	0 (0.0%)	42 (56.8%)	2	74
H24 ※2	5 (5.0%)	1 (1.0%)	31 (31.0%)	37 (37.0%)	6 (6.0%)	0 (0.0%)	57 (57.0%)	0	100

※1：生徒の進学希望を実現させることができる都立高校として都教育委員会が指定

全 185 校中、進学指導重点校 7 校、進学指導特別推進校 7 校、進学指導推進校 13 校

※2：26 年度以前の受験者数は未調査

（２）進学先の志望順位　　（人）

順位／年度	第一志望	第二志望	その他	全体
R2	46(78.0%)	11(18.6%)	2(3.4%)	59
R1	74(85.1%)	10(11.5%)	3(3.4%)	87
H30	57(67.9%)	17(20.2%)	10(11.9%)	84
H29	66(72.5%)	20(22.0%)	5(6.6%)	91
H28	45(67.2%)	15(22.4%)	6(9.0%)	67

注１：（　）内は受講者全体における志望校合格達成者の割合
注２：28 年度は、参加者 73 人中アンケートに回答のあった 67 人の生徒の志望校順位から算出。また、27 年度以前は未調査。

２　令和３年度足立はばたき塾の実施について

（１）実施事業者　　㈱エデュケーショナルネットワーク（７年目）

（２）令和３年度塾生（第１０期生）８２名（第１次募集）
入塾申込者１０８名のうち、所得審査と学力診断テスト(３月６日実施)により、はばたき塾生８２名を決定した。

（３）講座概要
４月３日(土)より開始(定期講座４０回、夏・冬季集中講座１５日)
数学・英語を中心とした５教科。会場は、こども支援センターげんき。

問　題　点 今後の方針	生徒の在籍校と事業者との連絡を密にしつつ効果的な学習支援を行い、塾生の志望校合格を目指していく。令和３年５月に第２次募集の学力診断テストを行い、追加入塾者を決定する。

文 教 委 員 会 報 告 資 料

令和３年４月２０日

件　　名	英語マスター講座委託契約プロポーザル選定委員会の審査結果について
所管部課名	教育指導部学力定着推進課
内　　容	**１　「英語マスター講座委託」委託事業者選定結果について** （１）選定委員会（プレゼンテーション）開催日 令和３年３月１１日（木） （２）選定委員 ７名（学識経験者２名、区民代表２名、 区立中学校長代表２名（１名欠席）、区職員１名） （３）審査対象事業者 １者（提案書提出事業者　１者） （４）審査結果　※　Ｐ８参照

提案事業者	得点 （満点 672 点）	得点率
株式会社 ｴﾃﾞｭｹｰｼｮﾅﾙﾈｯﾄﾜｰｸ	５４９点	８１．７％

（５）提案書特定事業者
株式会社エデュケーショナルネットワーク
（東京都千代田区富士見二丁目１１番１１号）

（６）提案書特定日
令和３年３月１１日（木）

（７）提案見積金額
１６，８４５，５００円（消費税抜き）

（８）提案内容の主な特長
ア　通常カリキュラムと別に、オンライン英会話を中心とした集中特訓を実施
イ　自分の意見を論理的に考え伝える能力を向上させるため、アウトプットに特化したレッスンを実施
ウ　通所困難時は、自宅でのオンライン英会話や録画した講座のオンデマンド配信でフォロー

	２　令和３年度実施概要（参考） （１）目的 一定レベル以上の英語力があり、かつ英語を学ぶことへの強い興味・関心と、自らの英語力向上への高い意欲を有する中学生に対し、民間教育事業者を活用したオンライン英会話を中心とした講座を実施し、実際のコミュニケーションにおいて活用できる力を身につける機会を提供する。 （２）日程 令和３年７月中旬から令和４年３月上旬まで （３）会場 区立梅島小学校 （４）対象 区立中学校１年生～３年生　９０名 （月曜日、水曜日、金曜日の３コース　各３０名） （５）講座内容 ア　通常講座（１講座あたりオンラインレッスン１回）１０回 イ　特別講座（１講座あたりオンラインレッスン２回）２０回 ※　講座修了生向けに、国内プチ留学体験（希望制）を年度末に実施する予定。
問題点 今後の方針	５月に実施する英語力判定テスト結果に基づき、６月に受講生を決定し、７月から講座を開始する。

英語マスター講座委託　提案書特定結果

対象業務名				配点		業者名	得点率
英語マスター講座委託						第一順位	
項番	評価項目					得点	
	分類		指標				
1	提案内容の的確性	業務計画（指導内容）や業務実施手順は妥当か	英語マスター講座の目的を十分に理解した方針を示しているか。生徒の英語力を向上させることが期待できるプログラム（年間指導計画および1日の受講スケジュール）を提案し、効果を高める工夫を凝らしているか。	60	90	49	81.7%
2	420点		業務実施手順は妥当か。参加生徒や実施会場の管理を含め、円滑な英語マスター講座運営のための配慮があるか。	30		23	76.7%
3		業務遂行体制は妥当か	英語マスター講座の業務遂行体制を運営していく上で十分な業務実績があるか。	60	90	55	91.7%
4			業務に精通し、業務を総括する管理責任者が配置されているか。 担当課との緊急時の連絡体制が整っているか。	30		27	90.0%
5		講師について（会場講師、オンライン英会話講師それぞれについて）	趣旨に沿った力量の講師を配置できているか。人数は妥当か。	30	90	24	80.0%
6			教育事業者として、講師や社員の採用時に求める方針がしっかりしているか。	30		24	80.0%
7			講座実施にあたり、どのような研修を計画しているか。また、スキルアップのための研修体制は充分か。	30		23	76.7%
8		参加生徒の在籍校や保護者への情報発信	参加生徒の在籍校や保護者に対する情報提供のプランがあるか。	30	30	23	76.7%
9		通所の代替策	通所困難となった生徒に対しても効果的な学習指導を行えるか。	60	60	54	90.0%
10		安全安心の確保、個人情報セキュリティ等法令順守に対する取り組み	参加生徒の安全確保に関する方針は具体的に示されているか。	30	60	26	86.7%
11			個人情報保護、内部情報漏洩防止、そのほかの関連法令の内規などが、具体的かつ充実しているか。	30		27	90.0%
12	スピーチ・ディスカッション対策 30点	スピーチ・ディスカッション対策	年度末のブリティッシュヒルズでの宿泊研修を見据え、論理的に分かりやすく伝える力が育成できるプログラムを提案しているか。	30	30	25	83.3%
13	オンライン英会話 30点	オンライン英会話の運用	オンライン英会話を行うタブレット等の利用環境及び運営体制は、セキュリティ対策も含めて安心して委託できるものか。	30	30	24	80.0%
14	教材 60点	教材を総合的に見た評価全般	教材の内容は、生徒たちに合った内容であるか。家庭学習用教材を含め量は適切か。	60	60	45	75.0%
15	プレゼンテーション全体 60点	プレゼンテーション、参考資料等を総合的に見た評価	業務従事者が誠実で意欲が感じられるか。また、質疑応答が的確で説明がわかりやすいか。事業に対する意欲、理解が充分に感じられるか。	30	60	25	83.3%
16			提案書の内容はわかりやすく、具体的なものであるか。 資料の内容から、安心して業務委託をすることができるか。	30		24	80.0%
17	コスト 60点	コストは妥当か	講師の賃金に影響をあたえるような不当に廉価な価格を提示していないか。費用対効果を期待できるか。見積書の積算は妥当で明確か。	60	60	51	85.0%
合　　計				ー	660	549	ー

項番	評価項目			加点	ー	得点	得点率
	分類	説明	評価基準（得点）				
1	区内業者	区内に本店がある場合	委員1人あたり2点を加点	12	ー	0	ー
2	区内業者	区内に教室・校舎がある場合	委員1人あたり1点を加点	6	ー	0	ー
総　　計						549	81.7%

順　　位	1

文 教 委 員 会 報 告 資 料

令和３年４月２０日

件　　名	令和３年度「中１夏季勉強合宿」の実施方法について
所管部課名	教育指導部　学力定着推進課、小中連携教育担当課
内　　容	**１　実施方法** **通所型・各中学校実施** （１）日　程 ８月１８日(水)から８月２５日(水)まで(土・日を除く) （２）会　場 中学校　全３５校 （３）授　業 Zoom による一斉指導とマンツーマンによる個別指導の組合せ ※　Zoom 授業は、全小・中学校から選出された教員が実施 ※　個別学習の指導者は<u>小中連携グループ内の小･中教員</u> **２　実施方法決定のポイント** （１）<u>小学校でかかわった教員が、直接、指導</u>することで、小中連携教育に一層の深まりが期待できる。 （２）指導にかかわった教員が、合宿<u>終了後も、直接、参加生徒へ継続的に指導</u>できる。 （３）新型コロナウイルス感染症対策を行いながらの実施が必要であるが、少人数に絞らざるをえない宿泊型に対し、会場が増える通所型は、同様の対策でも<u>より多くの生徒が参加</u>できる。 （４）新型コロナウイルス感染症の社会的状況や陽性者発生による<u>中止のリスクが低い</u>。
問題点 今後の方針	運営面や学習内容など、実施に向けた検討事項について、関係者と十分に調整を行い、準備を進めていく。

文 教 委 員 会 報 告 資 料

令和３年４月２０日

件　　名	「令和２年度第３回学校生活及びいじめに関するアンケート調査」報告について
所管部課名	教育指導部教育指導課
内　　容	**１　アンケート実施期間** 令和３年２月１日～２月２５日 において各学校が定めた期間 **２　対　　象**　全区立小・中学校　全児童・生徒 調査回答数　小学校　３０，６０８名 中学校　１３，０５０名 計　４３，６５８名 **３　アンケート実施方法** 児童・生徒が家庭にアンケート用紙を持ち帰り記入した後、専用の封筒で学校に提出する。 **４　結果概要（主要項目の前年２月との比較）** 全体についてはＰ１２～１４参照。 ・「相談できる人がいる」 ９９．２％（＋０．３ポイント） ・「冷やかし、からかい、悪口を言われた」 １，８５０件（－７１３件） ・「今、いじめられている」 ２２８件（－１０９件） ・未提出数 ５９１件（＋３８件） **５　アンケート結果の分析** （１）令和２年度に実施した３回のアンケート調査において、新型コロナウイルス感染症に関連したいじめについての回答はない。しかし、アンケート調査結果には表面化していないものもあると捉え今後も細心の注意を払いながらいじめの把握に努める。 （２）偏見や差別を生まないことの指導については、児童・生徒のみならず、引き続き保護者に対しても適宜啓発する。 （３）「相談できる人がいる」については、「先生」、「友人」に対しての相談が増加している。 （４）未提出数の増加は、コロナ不安や帰国困難による長期欠席者の増加が理由である。また、不登校児童・生徒の自宅まで訪問して回収することが難しい状況にある。

	６　足立区いじめ等問題対策委員会での意見 ・ 新型コロナウイルス感染症の影響で子ども達どうしの接触の機会が減ったことで、いじめが起こりにくくなっている一方、いじめ解消の機会も減っている様子がうかがえる。 ・ 教育委員会と各小・中学校が新型コロナウイルス感染症に起因するいじめの防止に神経を使っていたことが奏功していると思われる。 ・ 「相談できる人がいる」の割合が多いことは評価できる。割合が増加しているのは、教員の努力の結果である。 ・ 足立区のスクールカウンセラーの活用はうまくいっている。新人のカウンセラーについては、慣れるまでの間はベテランのカウンセラーとペアリングさせるなどで、さらによい活用につなげてほしい。
問　題　点 今 後 の 方 針	・令和３年度においても、いじめはどの学校でもどの子どもにも起こり得るという教職員の認識をより一層深め、細心の注意を払いながら、いじめ問題の未然防止、早期発見、早期対応に努める。 ・アンケートの回収が難しい家庭については、電話連絡等をとおして、いじめ被害の有無を確認する。

令和２年度いじめに関するアンケート調査結果（第３回：Ｒ０３．２月）

基礎情報	小学校			中学校			合計		
	Ｒ０２．２月	Ｒ０２．１１月	**Ｒ０３．２月**	Ｒ０２．２月	Ｒ０２．１１月	**Ｒ０３．２月**	Ｒ０２．２月	Ｒ０２．１１月	**Ｒ０３．２月**
在籍数	31,315 人	31,022 人	**30,838 人**	13,314 人	13,361 人	**13,411 人**	44,629 人	44,383 人	**44,249 人**
調査回答数	31,148 人	30,860 人	**30,608 人**	12,928 人	13,026 人	**13,050 人**	44,076 人	43,886 人	**43,658 人**
回答率	99.5%	99.5%	**99.3%**	97.1%	97.5%	**97.3%**	98.8%	98.9%	**98.7%**
未回収数	167	162	**230**	386	335	**361**	553	497	**591**
前回未回収数	130	116	**162**	348	215	**335**	478	331	**497**

結果　　（回答件数）

調査項目			小学校			中学校			合計		
			Ｒ０２．２月	Ｒ０２．１１月	**Ｒ０３．２月**	Ｒ０２．２月	Ｒ０２．１１月	**Ｒ０３．２月**	Ｒ０２．２月	Ｒ０２．１１月	**Ｒ０３．２月**
1	相談できる人がいる		99.3%	98.8%	**99.6%**	97.8%	98.2%	**98.1%**	98.9%	98.6%	**99.2%**
	内訳 ※複数回答	家の人	91.5%	91.2%	**91.1%**	79.5%	81.5%	**80.5%**	88.0%	88.3%	**88.0%**
		先生	64.6%	63.6%	**66.7%**	49.6%	51.7%	**52.4%**	60.2%	60.1%	**62.4%**
		友人	58.8%	58.7%	**61.3%**	76.9%	77.7%	**78.5%**	64.1%	64.3%	**66.4%**
		ＳＣ	14.2%	12.8%	**14.0%**	19.1%	20.0%	**19.4%**	15.7%	15.0%	**15.7%**
		その他	3.9%	4.1%	**3.7%**	3.7%	2.2%	**2.2%**	3.8%	3.5%	**3.2%**
	●上記の「家の人」は、兄弟・祖父母・いとこや親類等同居の場合も含む。 ●「その他」で記載された人物等の傾向について 習い事の先生、げんきの相談員、友達の家族、近隣の大人、医者（臨床心理士・精神科医）、デイサービス職員、シッター、学童や図書館支援員等の先生（教員以外の学校に関わる大人）、警察、ネット上の友達、いじめ相談（ネット、電話）、ペット ※小学校のみ：裁判所職員、教会の人、お寺の住職、自作のキャラクター、 ※中学校のみ：小学校の時の先生、先輩、人形										
2	冷やかし、からかい、悪口を言われた		7.7% (2,395)	8.7% (2,687)	**5.7% (1,734)**	1.3% (168)	1.3% (170)	**0.9% (116)**	5.8% (2,563)	6.5% (2,857)	**4.2% (1,850)**
3	仲間はずれ、無視		3.2% (1,004)	3.5% (1,074)	**2.4% (738)**	0.4% (49)	0.4% (49)	**0.2% (26)**	2.4% (1,053)	2.6% (1,123)	**1.7% (764)**
4	軽くぶつかる、叩かれる、蹴られる		2.1% (652)	2.5% (767)	**1.6% (495)**	0.4% (52)	0.6% (74)	**0.3% (45)**	1.6% (704)	1.9% (841)	**1.2% (540)**
5	ひどく叩かれる、蹴られる		1.7% (518)	1.7% (538)	**1.2% (374)**	0.2% (24)	0.2% (23)	**0.1% (12)**	1.2% (542)	1.3% (561)	**0.9% (386)**
	主な内容例 ・友達と遊んだり、話したりしている時に突然叩かれたり蹴られたりする。・理由もなく衝動的に叩かれた。・体育の学習や外遊びの時にいきなりボールを当てられた。・口げんかの後に叩き合いになった。・ふざけ合っているうちに叩かれた。 ※小学校のみ：・鬼ごっこの際にタッチした後に叩かれた。・友達が投げた消しゴムが頬に当たった。・オンラインゲームでケンカになり教室で叩かれた。 ※中学校のみ：・部活動内で悪口を言わされ、言わなかったら叩かれる。・友達へのちょっかいを止めたら、追いかけられて殴られた。										
6	お金を取られる、隠される		0.1%未満 (9)	0.1%未満 (17)	**0.1%未満 (11)**	0.1%未満 (6)	0.1%未満 (0)	**0.1%未満 (1)**	0.1%未満 (15)	0.1%未満 (17)	**0.1%未満 (12)**
	主な内容例 ※小学校の例：・友達に貸したお金を返してもらっていない。・ショッピングモールで無理やり飲み物やお菓子をおごらされた。・放課後、公園で遊んでいたときに１００円を取られたが、すぐに返却された。 ※中学校の例：・友達の家で複数人で遊んでいた時に千円札がなくなることが数回あった。										

調査項目		小学校			中学校			合計		
		R02．2月	R02．11月	**R03．2月**	R02．2月	R02．11月	**R03．2月**	R02．2月	R02．11月	**R03．2月**
7	物をとられる、隠される	1.9% (578)	2.2% (685)	**1.2% (372)**	0.3% (33)	0.3% (38)	**0.2% (23)**	1.4% (611)	1.6% (723)	**0.9% (395)**
8	嫌なことをされる、させられる	1.2% (366)	1.4% (435)	**0.8% (246)**	0.2% (22)	0.2% (25)	**0.1% (10)**	0.9% (388)	1.0% (460)	**0.6% (256)**
9	パソコンやスマホ、携帯での嫌がらせ	0.1% (41)	0.2% (70)	**0.1% (37)**	0.2% (24)	0.2% (29)	**0.1% (19)**	0.1% (65)	0.2% (99)	**0.1% (56)**
10	他のことでいじめられた	0.6% (193)	0.6% (170)	**0.4% (112)**	0.1%未満 (4)	0.1% (15)	**0.1%未満 (5)**	0.4% (197)	0.4% (185)	**0.3% (117)**
	主な内容例 ※小学校のみ：・他学年の子に「遊びに入れて」と言ったら断られた。・友達から「一緒には帰らない」と言われた。・意見を言うと必ず反論される。・友達にくすぐられた。・嫌だと言ってもついてこられる。 ※中学校のみ：・別の生徒と後ろ姿が似ていることから、その人の名前で揶揄されて呼ばれることがあった。									
11	友達がいじめられているのを見た	5.1% (1,573)	5.7% (1,767)	**3.6% (1,090)**	0.7% (95)	0.5% (70)	**0.3% (45)**	3.8% (1,668)	4.2% (1,837)	**2.6% (1,135)**
12	今、いじめられている	1.0% (312)	0.9% (278)	**0.7% (202)**	0.2% (25)	0.2% (31)	**0.2% (26)**	0.8% (337)	0.7% (309)	**0.5% (228)**

未回収数の内訳

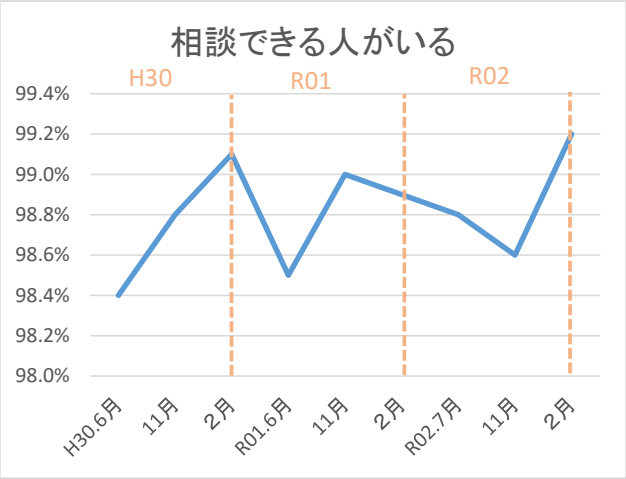
	小学校			中学校			合計		
	R02．2月	R02．11月	**R03．2月**	R02．2月	R02．11月	**R03．2月**	R02．2月	R02．11月	**R03．2月**
全員回収	20	16	**11**	2	5	**6**	22	21	**17**
１名	10	14	**10**	1	2	**1**	11	16	**11**
２名	11	15	**11**	6	2	**3**	17	17	**14**
５名以内	20	16	**26**	4	5	**2**	24	21	**28**
１０名以内	7	7	**9**	7	6	**10**	14	13	**19**
１１名以上	1	1	**2**	15	15	**13**	16	16	**15**
合計	69	69	**69**	35	35	**35**	104	104	**104**

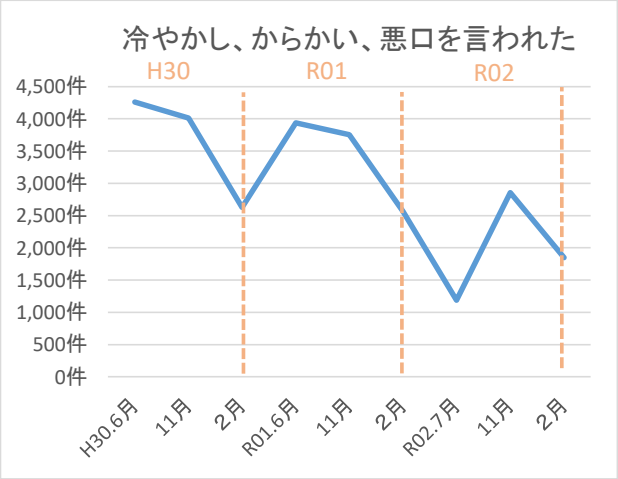
未回収となった主な理由

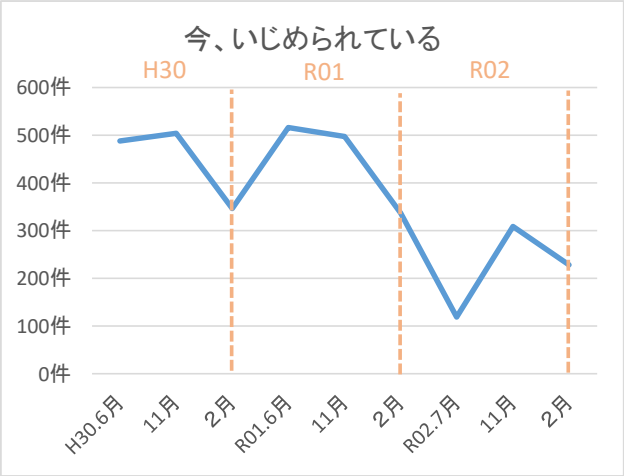
	小学校			中学校			合計		
	R02．2月	R02．11月	**R03．2月**	R02．2月	R02．11月	**R03．2月**	R02．2月	R02．11月	**R03．2月**
学籍のみ	13	13	**18**	6	7	**5**	19	20	**23**
実施期間中に居住地以外に在住	12	10	**12**	2	1	**5**	14	11	**17**
児童相談所等との連携	5	4	**3**	4	5	**4**	9	9	**7**
不登校であり、回収に至らなかった	106	97	**162**	321	292	**325**	427	389	**487**
不登校気味で、日常的に本人・保護者との面会が困難	8	5	**4**	26	17	**5**	34	22	**9**
本人・保護者の判断	3	17	**8**	5	5	**2**	8	22	**10**
病気（入院中も含む）	16	13	**22**	22	7	**14**	38	20	**36**
日本語による読解が困難な状況	4	1	**1**	0	0	**1**	4	1	**2**
拒否	0	2	**0**	0	1	**0**	0	3	**0**
合計	167	162	**230**	386	335	**361**	553	497	**591**

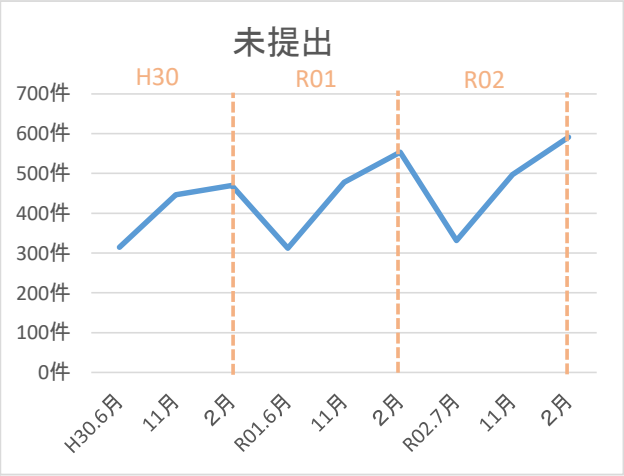
令和２年度いじめに関するアンケート調査結果【抜粋】

＜経年＞	平成３０年度			令和元年度			令和２年度		
	H30.6月	11月	２月	R01.6月	11月	２月	R02.7月	11月	２月
相談できる人がいる	98.4%	98.8%	99.1%	98.5%	99.0%	98.9%	98.8%	98.6%	99.2%
冷やかし、からかい、悪口を言われた	4,261件	4,010件	2,625件	3,937件	3,753件	2,563件	1,186件	2,857件	1,850件
今、いじめられている	488件	504件	346件	516件	497件	337件	119件	309件	228件
未提出	314件	446件	470件	312件	478件	553件	331件	497件	591件









文 教 委 員 会 報 告 資 料

令和３年４月２０日

件　　名	あだち日本語学習ルームの令和２年度修了判定結果について
所管部課名	教育指導部教育指導課
内　　容	

１　在籍中学生

２８名（令和３年２月末現在）

２　修了判定方法

担当指導者が指導後の記録をもとに判定を行い、日本語指導員全員で協議して最終判定する。

（１）評価領域

「関心・意欲・態度」「話す」「読む」「書く」「聞く」

（２）評価基準

４:よくできる　３:概ねできる　２:あまりできない　１:できない

（３）修了判定基準

各評価領域の評価が概ね３に達すること。

３　修了判定結果

通級開始時期	生徒数	修了者	修了率	※　平均指導時間
６月末～７月	１４名	１４名	１００．０％	１８０時間
９月	６名	５名	８３．３％	１６２時間
１０月	３名	１名	３３．３％	１５８時間
１１月	２名	０名	０％	１２６時間
１２月～1月	３名	０名	０％	６７時間
合計	２８名	２０名	７１．４％	―

※　日本語習得状況と所属校での授業参加状況により、週 1～１１時間（平均５～６時間程度）の指導を実施

４　考察

・　母語での支援を含めた個別指導に時間を費やし、効果的なグループ指導の時間が十分に確保できなかった。

・　「話す」「読む」「書く」「聞く」の４領域のうち、「書く」領域が最も習熟に時間がかかる傾向があった。

・　修了者の通算指導時間は１７０時間前後であり、日本語取得には一定の指導時間の確保が必要である。

	５　令和３年度の方針 　令和２年度未修了生徒の指導を継続するとともに、新規生徒を迎え、以下の方針で指導を実施する。 ・　母語での支援が必要となる初期段階の個別指導から、習熟度及び領域別のグループ指導へと円滑に移行し、効率的・効果的な指導を目指す。 ・　日本語取得に必要な一定の指導時間数を確保する。 以上
問　題　点 今後の方針	令和３年度以降については、上記５の方針に基づき運営していく。

文 教 委 員 会 報 告 資 料

令和３年４月２０日

件　　名	「よりよい学校生活と友達づくりのためのアンケート調査（hyper-ＱＵ）」の実施結果について
所管部課名	教育指導部教育指導課
内　　容	

１　実施方法

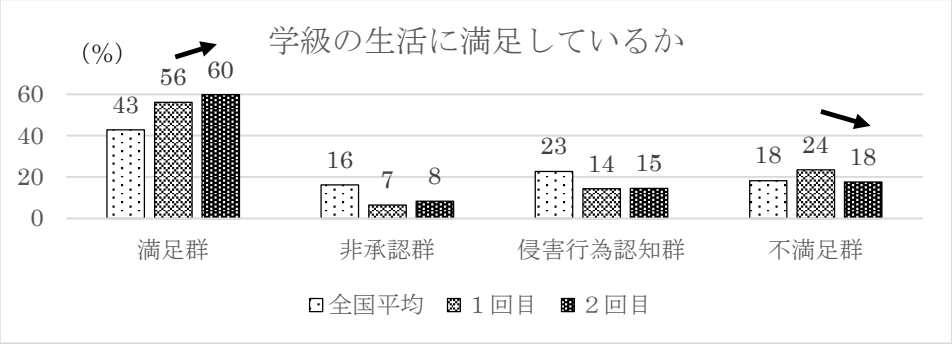
・　４月～５月及び１０～１２月に年２回実施

※　ただし、令和２年度については、臨時休業のため１回目を６～７月に実施した。

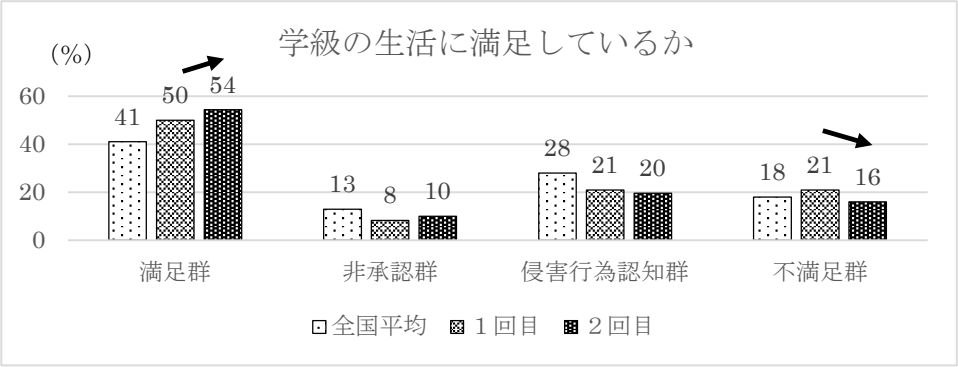
・　小学校３年生から中学校３年生を対象に実施

２　学級生活の満足度について

（１）小学校



（２）中学校



※各群の特徴について

満　足　群：学級内に自分の居場所があり、学級生活や様々な活動を意欲的に送っている。

非承認群：不安となる出来事もないかわりに、学級内で認められることも少なく、学級生活や様々な活動への意欲の低下が見られる。

侵害行為認知群：学級生活や様々な活動には意欲的であるが、自己中心的な面があり、そのプロセスでトラブルが生じてしまう場合がある。

不満足群：集団生活への不安傾向が強く、学級集団への適応に課題が見られる。

（３）考察

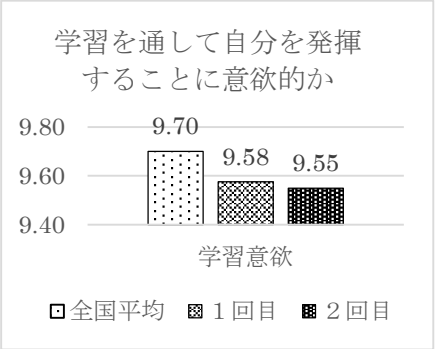
・　教員間での課題共有と組織的な指導の実践により、全体的に満足群の増、不満足群の減を実現できた。

・　満足群を増やせなかった学校（小中各１校ずつ）、不満足群を減らせなかった学校（小１０校、中４校）については、指導主事の学校訪問の際に「教員間での課題の共有」や「児童・生徒への効果的な声掛け」など、具体的な組織的対応の指導を継続する。

	小学校（６９校中）	中学校（３５校中）
満足群の改善（増）	６８校	３４校
不満足群の改善（減）	５９校	３１校

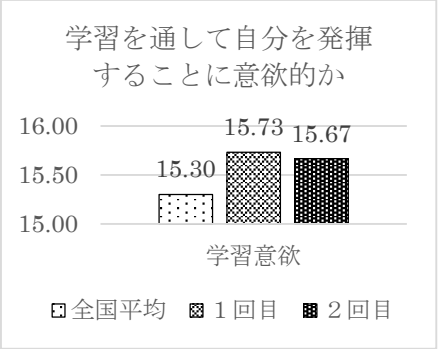
３　学校における生活への意欲について

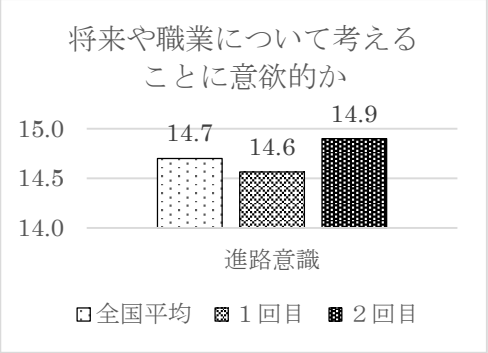
（１）小学校



※　数値は２０点満点中の平均得点

（２）中学校





（３）考察

・　例年どおり、小学生の学習意欲と中学生の進路意識が低調であった。

・　日常の様子から、児童・生徒の学習を行う目的意識の希薄化が見取れることから、新たに作成したキャリア・パスポートを活用し、自らの将来像と結び付けた学習指導を行えるよう、各校へ指導を行っていく。

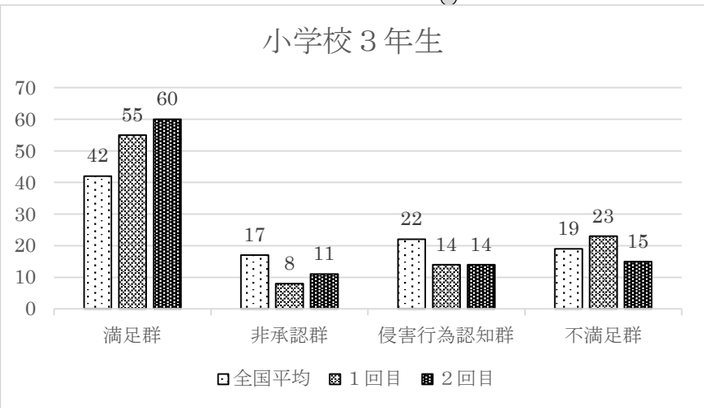
問題点 今後の方針	よりよい学校生活と友達づくりのためのアンケート調査（hyper-QU）の結果に基づき、組織的な体制づくりができるような研修の実施や学校への指導を強化する。

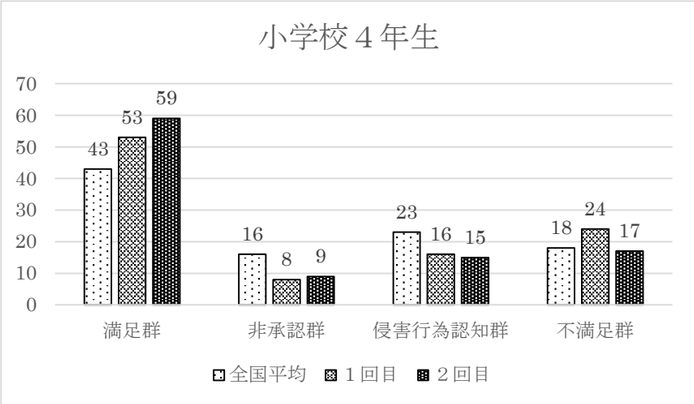
１　「学級生活満足度尺度（いごこちのよいクラスにするためのアンケート）　」について

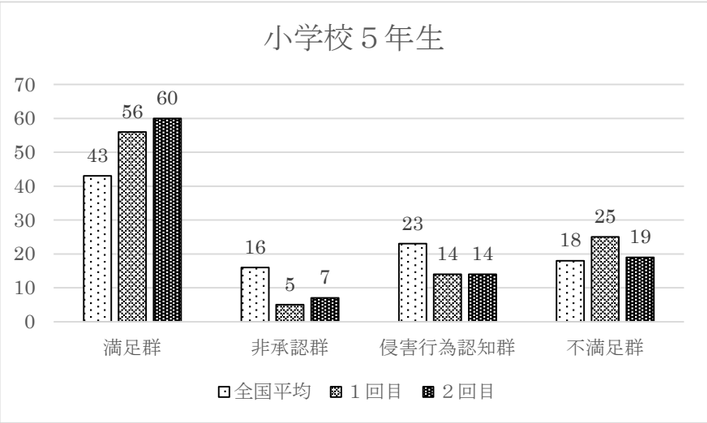
足立区教育委員会　教育指導部　教育指導課

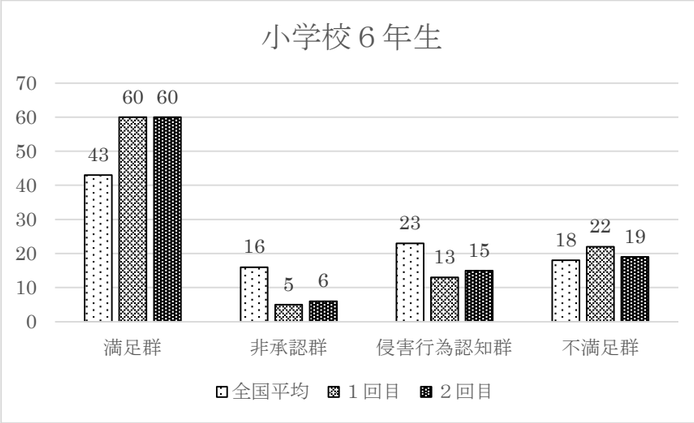
※学級生活満足度尺度では、学級の中で温かい交流ができているか、集団生活を行うためのルールやマナーが定着しているかについて見取ることができる。詳細は、下記を参照。

小学校

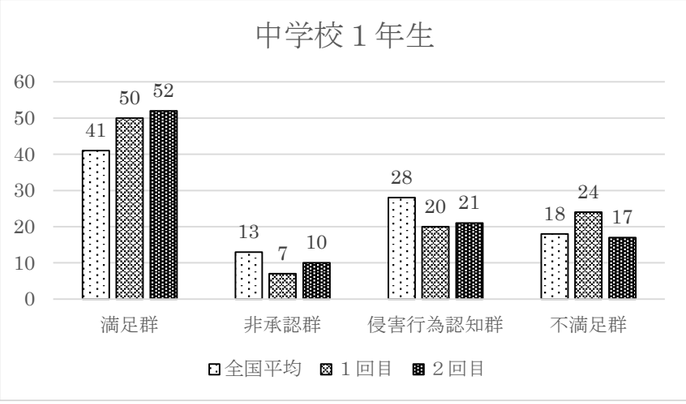


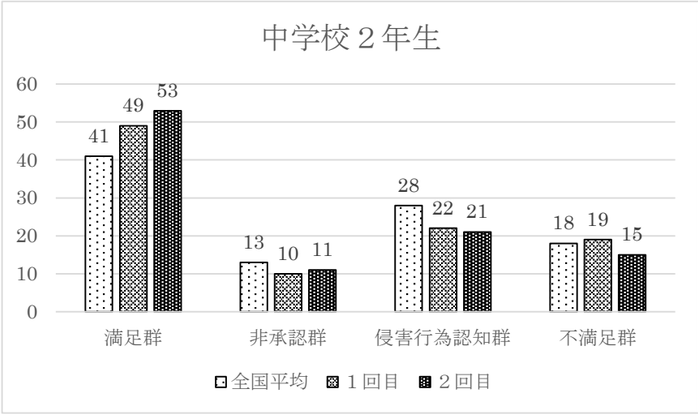


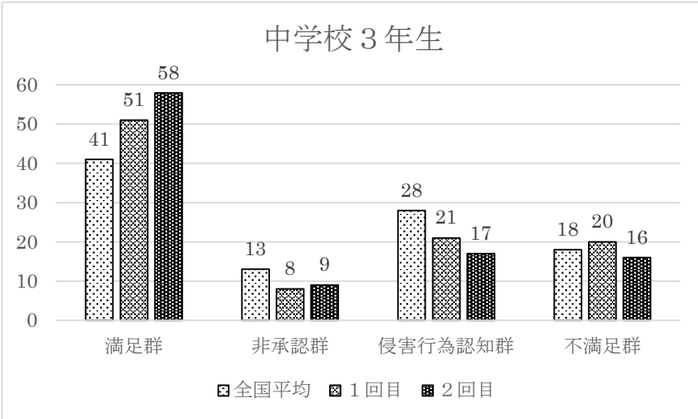




中学校







1　満足群：学級内に自分の居場所があり、学級生活や様々な活動を意欲的に送っている。

2　非承認群：不安となる出来事もないかわりに、学級内で認められることも少なく、学級生活や様々な活動への意欲の低下が見られる。

3　侵害行為認知群：学級生活や様々な活動には意欲的であるが、自己中心的な面があり、そのプロセスでトラブルが生じてしまう場合がある。

4　不満足群：集団生活への不安傾向が強く、学級集団への適応に課題が見られる。

※　端数処理の都合上、合計が１００％にならない場合がある。

【満足群の出現率について】

○　１回目、２回目ともに「満足群」に位置する児童・生徒の割合は、全学年において全国平均よりも高い。

○　全学年において、１回目より２回目の方が満足群の割合が同等もしくは増加している傾向が見られる。

【承認得群と侵害行為認知群の出現率について】

○　１回目、２回目ともに「非承認群」「侵害行為認知群」に位置する児童・生徒は、全学年において全国平均よりも少ない。

【不満足群の出現率について】

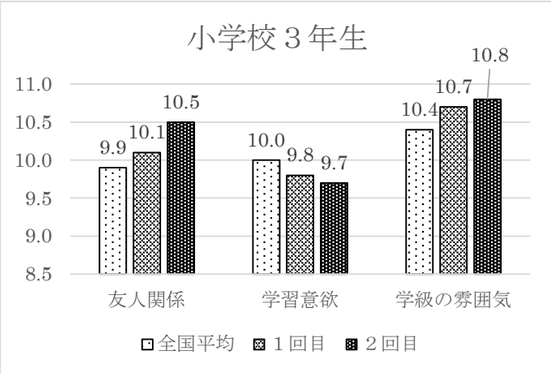
○　１回目は、全学年において全国平均よりも多かったものの、２回目は減少した。指導の効果が現れたと考える。

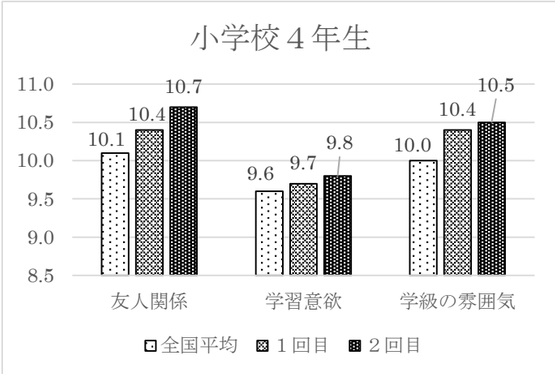
２　「学校生活意欲尺度（やる気のあるクラスをつくるためのアンケート）　」について

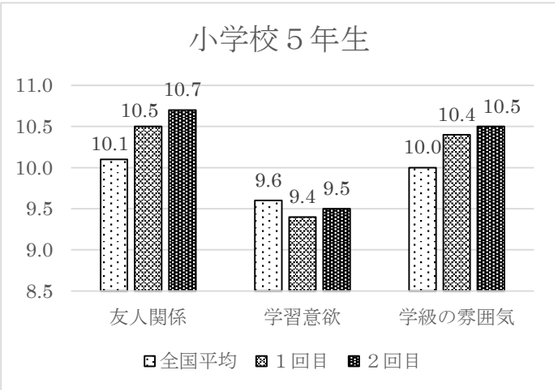
足立区教育委員会　教育指導部　教育指導課

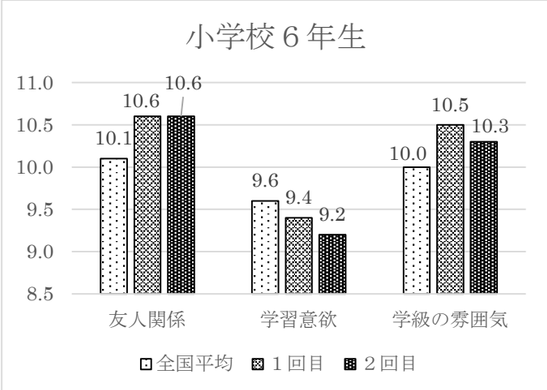
※学校生活意欲尺度では、友人や学級との関係、学習意欲などの面において、児童・生徒がどのような点に意欲をもって生活しているかを見取ることができる。詳細は、下記を参照。

小学校







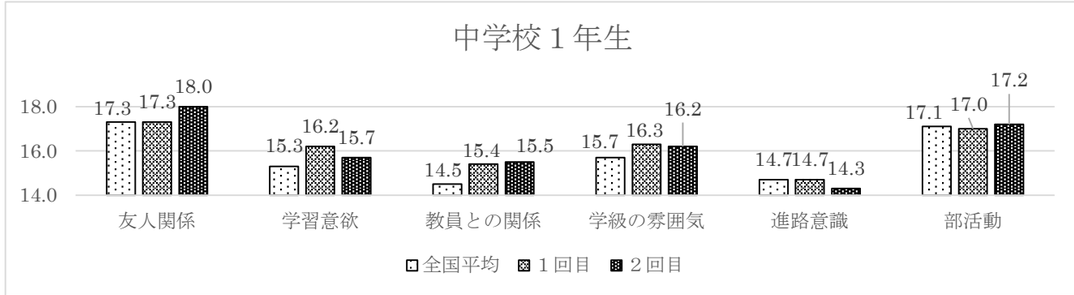


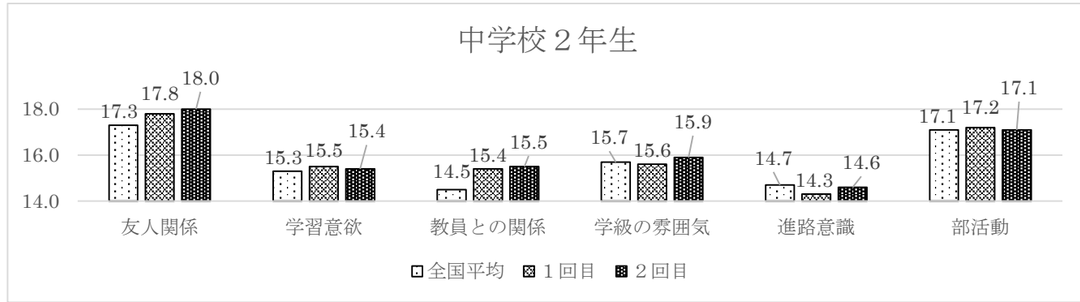
【小学校の結果から】

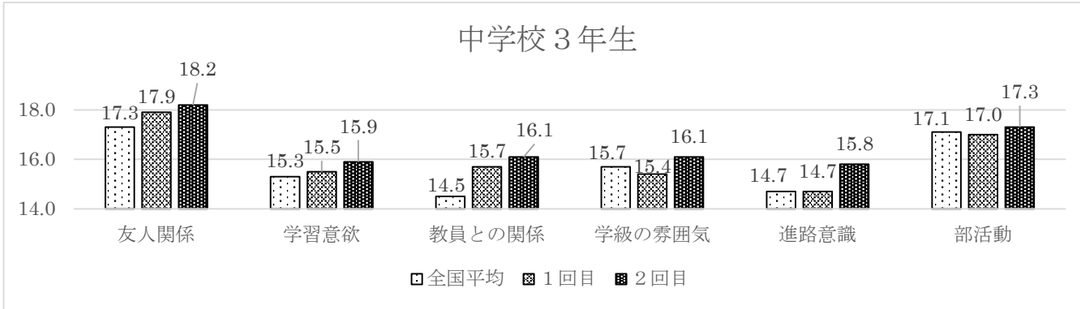
○　「友人関係」及び「学級の雰囲気」の項目については、１回目・２回目ともに、どの学年においても全国平均よりも上回っている。また、１回目よりも２回目の方は増加傾向が見られることから、学校生活に意欲を見せる児童が増えていることが分かる。

○　「学習意欲」については、１回目・２回目ともに、４年生以外の学年において全国平均よりも下回っている。更に、３年生及び６年生においては、２回目は１回目と比較して減少傾向にある。前年度と比較しても同水準であることから、今後は学習意欲を高められるような指導の工夫が求められる。

中学校







【中学校の結果から】

○　「友人関係」や「教員との関係」の項目については、全国平均よりも大幅に上回っており、２回目では更に増加させることができた。特に「教員との関係」については、前年と比較しても増加傾向にあった。

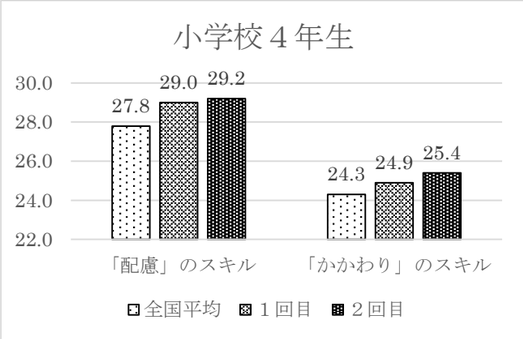
○　１回目の実施時期が臨時休業明け直後であったこともあり、「進路」への関心及び「部活動」の満足度については全国平均を下回った。しかし、徐々に部活動が再開されたり、受験に向かう時期であったりしたことから、２回目では特に２年生・３年生において増加傾向が見られた。

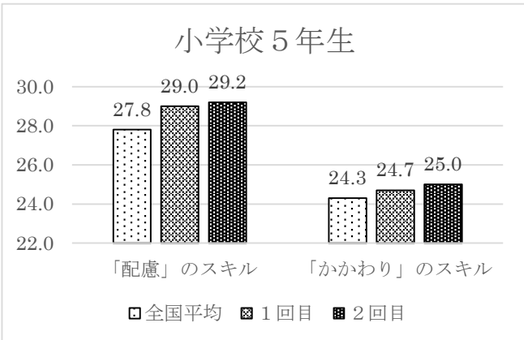
３　「ソーシャルスキル尺度（日常の行動を振り返るためのアンケート）　」について

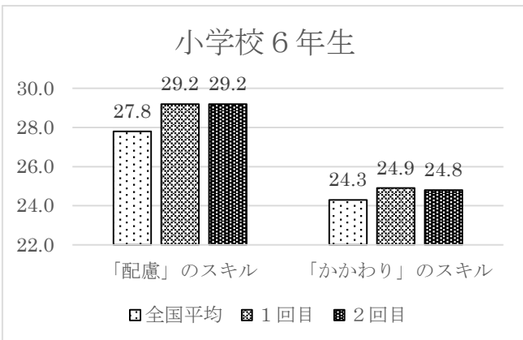
足立区教育委員会　教育指導部　教育指導課

※ソーシャルスキル尺度では、集団形成に必要な対人関係を営むためのスキル・技術がどの程度身に付いているかを見取ることができる。詳細は、下記を参照。

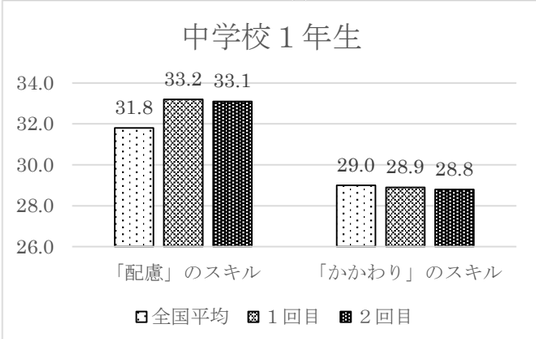
小学校

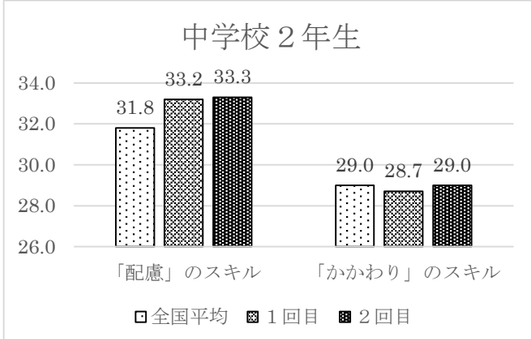


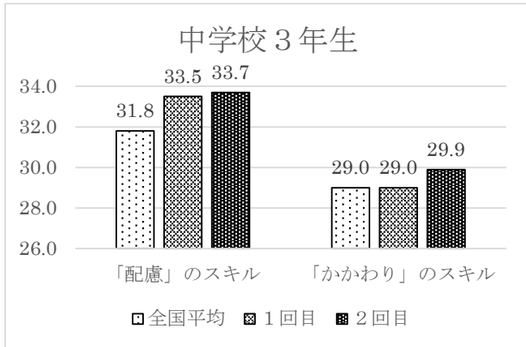




中学校







○ソーシャルスキル尺度は、「配慮」のスキルと「かかわり」のスキルの２点で構成されている。

【「配慮」のスキル】

※ 対人関係の基本的なマナーやルールを守ることができる能力。

○　「配慮」のスキルについては、前年に引き続き、どの学年においても大きく全国平均を上回っている。

○　特に、小学校４・５年生、中学校２・３年生において、２回目は１回目と比較して上昇傾向にあることが分かる。

○　より「配慮」のスキルを向上させるために、学級内のルールを明確にして、守ったことを褒めるなどの指導が必要と思われる。

【「かかわり」のスキル】

※人とかかわるきっかけや関係を維持する能力、また感情の交流をすることができる能力。

○　「かかわり」のスキルについて、小学校においては全学年が全国平均よりも上回ったものの、中学校においては、同程度であった。

○　１回目と２回目を比較したところ、特に中学校３年生において大幅に増加しており、以下の３項目において特に増加傾向が見られた。

・　「みんなと同じくらい話をしている。」

・　「みんなのためになることを自分で見付け実行している」

・　「困っている時に、手伝ってほしいとお願いしている」

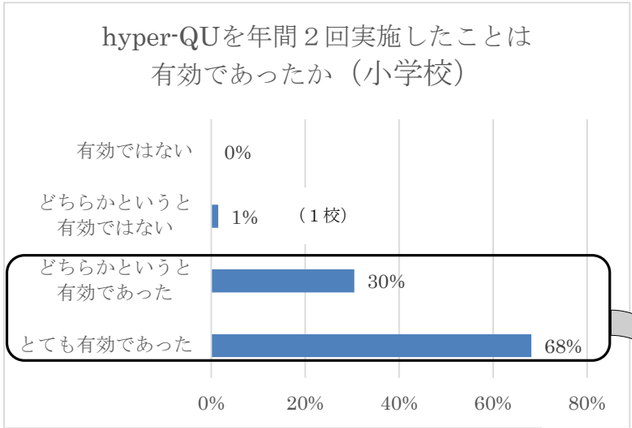
○　当番や係活動、学び合い等をとおして、他者とかかわる機会を増やすことが求められる。

４　各学校における調査結果の分析について

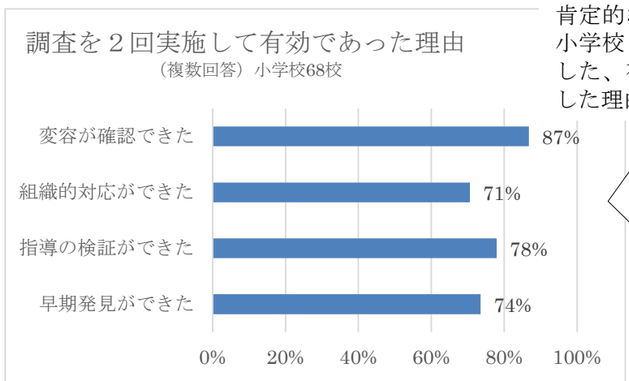
足立区教育委員会　教育指導部　教育指導課

※各学校に対して実施した活用状況調査から、調査結果をどのように生かすことができたか、また、効果のあった指導について集計。詳細は、下記を参照。

小学校



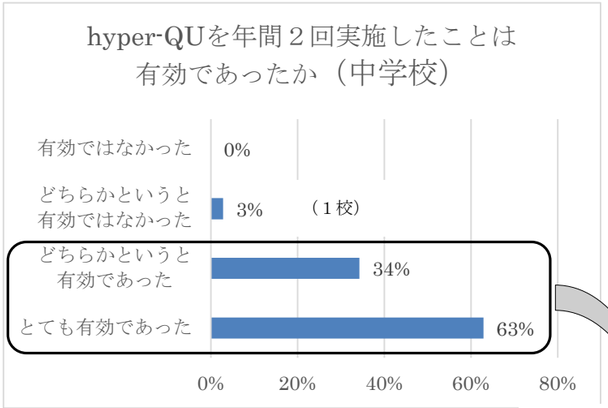
肯定的な回答をした小学校６８校が選択した、有効であるとした理由



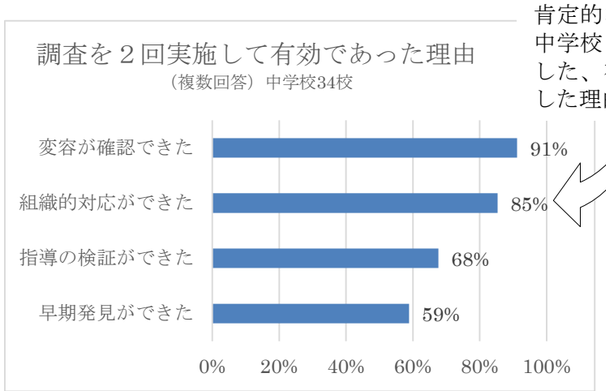
【効果のあった指導について（小学校）】※上位を抜粋

- 「要支援群」や「学級生活不満足群」の児童を中心に、教員による意識的な声掛けを行った（31）。
- 教員間で要支援群の生徒の情報共有を行い、組織的な対応を行った（19）。
- 好ましい行動が見られた時に機会を逃さず具体的に賞賛する。係活動などを充実させ、褒める場面を作った（18）。
- 児童相互で良いところ認め合う活動を多く取り入れた（9）。
- 授業などでソーシャルスキルを意識した活動を取り入れた（8）。
- 要支援群の児童（他児童も含む）に個人面談を実施した（8）。
- 学習面や生活面での丁寧な個別指導を行った（6）。

中学校



肯定的な回答をした中学校３４校が選択した、有効であるとした理由



【効果のあった指導について（中学校）】※上位を抜粋

- 「要支援群」や「学級生活不満足群」の児童を中心に、教員による意識的な声掛けを行った。(例：学年教員等による声掛け、意図的な役割分担等の工夫）（17）。
- 要支援群の生徒（他生徒も含む）に個人面談を実施した（8）。
- SC や SSW につなぐなど、教育相談と連携した（8）。
- 教員間で要支援群の生徒の情報共有を行い、組織的な対応を行った（7）。
- 道徳授業を工夫したり、学級でエンカウンターを取り入れた活動を行ったりした（6）。
- 個別指導を手厚く行った（5）。

調査を２回実施して有効であった理由

【変容確認】

「要支援群」や「学級生活不満足群」にいる児童・生徒などについて、第１回の結果を基にした指導を行った後、第２回でその変容を確認することができた。

【組織的対応】

結果をふまえた手立てを教員間で検討や共有ができたため、組織的な指導・対応をすることができた。

【指導の検証】

早期に学級集団の傾向を把握した指導を行い、その指導の効果を検証することができた。

【早期対応】

回数を増やしたことで、児童・生徒の「ヘルプシグナル」等に気付くことができた。

【各学校における調査結果から】

○　Hyper-ＱＵを年間２回実施することについて、ほとんどの学校が肯定的な回答を示している。その理由として、多くの学校は、１回目の結果で「要支援群」や「学級生活不満足群」にいる児童・生徒の変容が２回目の結果から確認できた点を挙げている。

○　１回目の結果から教員間で課題を共有して組織的な指導を行うことや、２回目の結果から指導の効果を学校全体で検証することなど、組織的に対応することが重要であるが分かった。

○　教員が予想していなかった児童・生徒が要支援群にいたことが分かったことで、いじめ等の問題行動に対する早期発見、早期対応ができたことは大きな成果であると考える。